

バロック・オペラ絵巻 アモーレとプシケ

曲目全容が明らかに！

モンテヴェルディ、カッチーニ、パーセル……バロック音楽の偉人たちが残した、珠玉の音楽の数々をシーンに合わせて選りすぐり、一つのストーリーとして美しく繋ぎ、その調べに乗せて歌い、語り、舞う、恋の物語。それがバロック・オペラ絵巻「アモーレとプシケ」。神々や人物を演じるのは日本舞踊、能、そしてコンテンポラリーダンス。東西の舞の饗宴により「ミュージカル」仕立てでお届けします！16～17世紀の名曲は音楽だけでも面白い。さらにアントネッロの「遊び」に満ちた演奏が加わって、この瞬間しか体験できないスペクタクルが繰り広げられます。

演奏は



莊重なファンファーレで物語の幕を開けます。

濱田芳通率いるアントネッロ

歌うのは



女神ヴェーネレが蔑まれている自分を嘆いて歌います。

坂下忠弘

プシケに恋してしまったアモーレの一途な思いを歌う。

ローゼンミラー
ソナタ第9番
モンテヴェルディ
私は慘めな女神（皇妃）～『ポッペアの戴冠』第1幕
フレスコバルディ
このように私を蔑むのか
カッチーニ
アモールよ 何をグズグズしているのか
カッチーニ
天にもこれほど光はなく
メールラ
そんな風に信じるなんて

ヴィットマン
マルガレータ～舞曲集『音楽の鏡』より
パーセル
復讐の女神たちのエコーダンス～エコーダンス～『ダイドーとイニーアス』第2幕
ヴィットマン
ゾフィア～舞曲集『音楽の鏡』より
モンテヴェルディ
ああ、痛々しい出来事～『オルフェオ』第2幕

パーセル
嘆きの歌～『妖精の女王』第5幕
カツツァーティ
7音のバスによるカプリッチョ
モンテヴェルディ
何と甘美なことか、かぐわしき唇よ SV139～マドリガーレ集第7巻「コンチェルト」
モンテヴェルディ
金色の髪よ、美しき宝よ SV143～マドリガーレ集第7巻「コンチェルト」
マレンツィオ
西風が戻り
ダウランド
暗闇の中に私を住ませよ～歌曲集第4巻「巡礼の慰め」
モンテヴェルディ
ニンファの嘆き SV163～マドリガーレ集第8巻「戦いと愛のマドリガーレ」
モンテヴェルディ
ああ、恋人はどこに SV140～マドリガーレ集第7巻「コンチェルト」
パーセル
魔女たちの踊り～『ダイドーとイニーアス』第3幕
モンテヴェルディ
悩める人間の唯一の頼み～『オルフェオ』第3幕
モンテヴェルディ
何も知らずに眠る～『ポッペアの戴冠』第2幕
マリーニ
サラバンダ第3番

モンテヴェルディ
母なるヴィーナスよ～『ポッペアの戴冠』第3幕
モンテヴェルディ
あなたを見つめ～『ポッペアの戴冠』第3幕
ガストルディ
愉しき人生

ロッシ
4声のガイヤルド「ザンバリーナ」

歌うのは



美の女神と崇められている娘プシケに嫉妬する女神ヴェーネレの恨み節は、初期バロック・オペラの偉大な傑作「ポッペアの戴冠」から。

上杉清仁

イタリア古典歌曲として親しまれる名作。今回は作曲当時の軽快なテンポで歌われます。

ご試聴は



荒々しい音楽が、復讐の女神たちの怒りをありありと描き出します。



歌うのは



モンテヴェルディが残した独唱や重唱の美しい歌＝マドリガーレも聴けます。

新海康仁

嘆きの涙の嗚咽を鮮やかに描き出すかのよう、パーセルのアリアの傑作。



リュートの伴奏で、詩情豊かに歌われるダウランドの名作。

歌うのは



プシケがアモーレを探す歌として登場。「どこ？どこ？」と探すプシケ（ソプラノ）に、周囲（コーラス）が「可哀そうに……」とその様子を歌います。

妙に心に引っかかる不思議で斬新な音楽です。

魔女の踊りはトゲトゲしい？

ここに注目！

洋楽と邦楽が出会う場所・紀尾井ホールだからこそ、和の要素をふんだんに。

踊り手には、ダンサーとともに、日本舞踊家と能シテ方も登場します。

ステージは歌舞伎舞踊のエッセンスを取り入れて、アントネッロと歌手陣が長唄連中さながら音楽と歌やセリフで、踊り手が舞と演技で物語を描き出します。

好評販売中

アモーレと
プシケ

～紀尾井ホール

3月19日(木)18時開演・20日(金祝)14時開演

※詳しくはチラシ、ウェブサイト <https://kioihall.jp/> をご覧ください。

お問合せ

紀尾井ホールチケットセンター
03-3237-0061

(10時～18時／日・祝休)



見つめ合う二人が歌う愛のデュエット。いまのポップスでもよく使われるコード進行で、現代人の心にもスースッと響くいい歌です。

制作総指揮・脚本 彌勒忠史

※曲目は演奏予定のもので、実際の公演では変更・割愛となる場合があります。予めご了承ください。